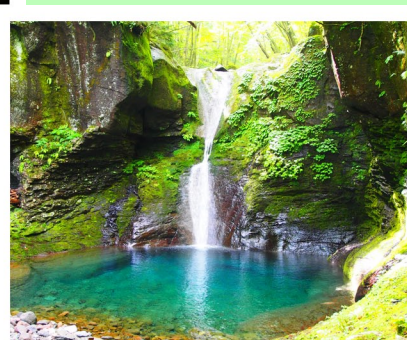
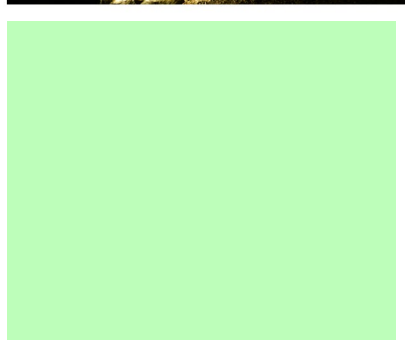
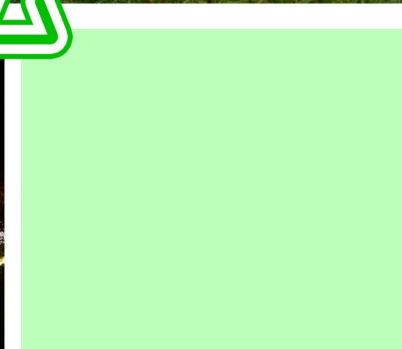
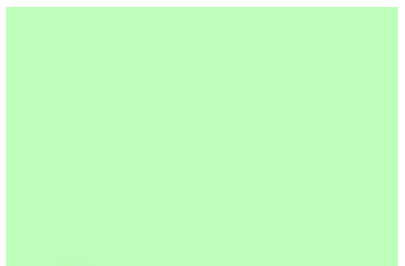
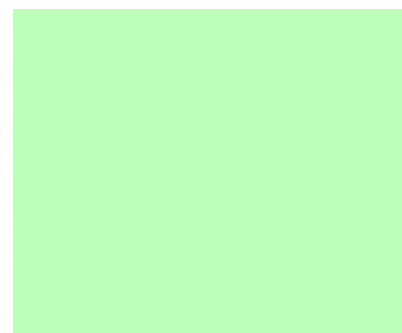


日光国立公園 ステップアッププログラム 2025



令和3（2021）年3月
日光国立公園満喫プロジェクト
地域協議会

日光国立公園ステップアッププログラム 2025

**National
Parks
of Japan**



はじめに	2
1. 現状分析	3
(1) 日光国立公園の特徴	
(2) 観光客の状況	
(3) 日光国立公園の課題	
2. コンセプトと取組の方針	14
(1) 日光国立公園のコンセプト（基本概念）	
(2) 目指す姿と取組の方向性	
(3) ターゲットとする利用者層	
3. 目標	17
(1) 数値目標	
(2) 質的目標	
4. プロジェクトの実施	19
(1) 日光国立公園全体での重点取組事項	
(2) 各エリアの取組方針	
(3) 宣伝・誘客の方針	
＜参考＞with コロナ期・after コロナ期における取組	
5. 効果検証	40
(1) 目標達成率による検証	
(2) 取組の進捗状況の検証	
(3) 満足度の検証	
(4) 検証内容の反映	
参考資料	41

はじめに

2016（平成 28）年 3 月に、政府により「明日の日本を支える観光ビジョン」がとりまとめられ、訪日外国人旅行者数を 2020（令和 2）年までに 4,000 万人、2030（令和 12）年までに 6,000 万人とすることが新たな目標として掲げられた。この取組の柱の一つとして、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化することを目標に、「国立公園満喫プロジェクト」を実施することとなった。

この目標を達成するため、訪日外国人を惹きつける取組を先行的、集中的に実施する国立公園の一つとして日光国立公園が選定され、2016（平成 28）年から 2020（令和 2）年までの 5 年間、「日光国立公園ステップアッププログラム 2020」に基づき、国内外から多くの観光客を呼び込む取組を実施してきた。

2020 年までの計画期間においては、訪日外国人来訪者数 50 万人、宿泊者数 25 万人を目指す目標を掲げ、トイレの洋式化や標識の多言語化等の各種ハード整備や案内機能の強化等による訪日外国人観光客の受入環境整備と老朽化施設の再整備、新たなツアー開発や修景伐採等による観光資源の磨き上げ、海外向けのプロモーション等に取り組んだ。

主な成果としては、日光国立公園自然ガイド協会や日光自然ガイド協議会、那須エリアネイチャーツーリズム協議会の発足による自然ガイドの組織化や各地域でのシェアサイクル等の新たな交通の整備、ライトアップ奥日光や殺生石ライトアップ、低公害バスを活用した夜間自然観察プログラム等の新たな夜間コンテンツの創出に向けての試み等が挙げられる。

本プログラムは、2021（令和 3）年度から 2025（令和 7）年度までの 5 年間を計画期間とした、日光国立公園における取組のロードマップとして位置づけ、国・自治体・民間事業者が一体となって実施していくものである。本計画期間においては、いまだ新型コロナウイルス感染症収束の目途が立たず、訪日外国人観光客の入国制限の緩和時期も不明な状況にあることから、国内観光客の誘客にも力を入れつつ、収束前の with コロナ期及び収束後の after コロナ期における各実施主体の取組の指針を示す。

1. 現状分析

(1) 日光国立公園の特徴

ア. 全体の概要

日光国立公園は、1934(昭和9)年に、日本で最初に誕生した国立公園のうちのひとつで、福島県・栃木県・群馬県の三県にまたがり、総面積は約11.4万ヘクタール。北西部は尾瀬国立公園と隣接している。那須火山帯に属する山々や豊かな森林、溪谷、湖、滝、湿原等、火山群と水が織りなす自然景観が特徴で、ラムサール条約湿地「奥日光の湿原」等、世界的にも貴重な自然が広がっている。

春は花、夏は水、秋は紅葉、冬は雪と、日本の四季を満喫できる自然環境に加え、世界文化遺産「日光の社寺」や、皇室ゆかりの施設、旧外国大使館別荘など、歴史・文化遺産も多数所在する。火山と水の恵みである温泉も豊富で、歴史ある古湯・秘湯が数多く点在する。

また、JR、東武鉄道及び東北自動車道が縦断しており、空港や主要駅から直通の高速バスも運行されているなど、公共交通により、東京から国立公園内の主要エリアまで、最短約2時間でアクセスが可能であり、東京から非常に近い位置にあることも大きな特徴となっている。



日光国立公園区域図

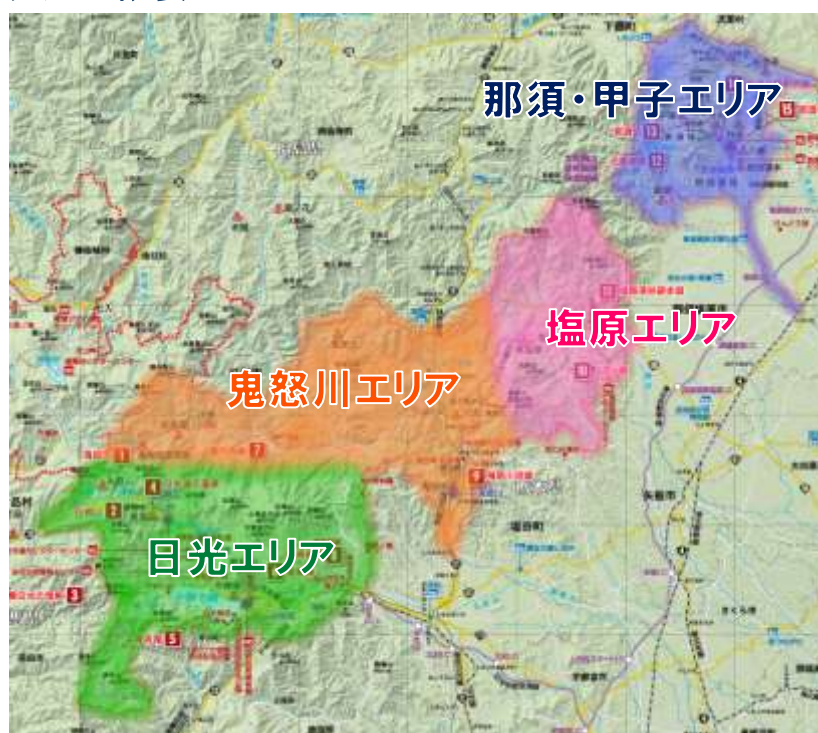


中禅寺湖と男体山



茶臼岳とゴヨウツツジ

イ. 各エリアの概要



(A) 日光エリア

日光エリアは、世界文化遺産「日光の社寺」や日光田母沢御用邸記念公園、旧大使館別荘等の多くの歴史・文化遺産や、開湯 1200 年超の歴史を誇り、国民保養温泉地第 1 号でもある奥日光湯元温泉を有し、本公園内で最も多く外国人観光客が訪れている。自然ガイドや文化財ガイドなど多彩なガイドツアーが提供されており、多様な文化体験も提供されている。

自然景観では、ラムサール条約湿地「奥日光の湿原」をはじめとした湖、湿原、滝など豊富な水環境が特徴となっている。世界遺産周辺から丸沼周辺まで、約 1100m の高低差があり、気候や植生等の垂直方向の変化も楽しめる。

北西部が尾瀬国立公園と隣接しており、日本百名山に選ばれた男体山、白根山をはじめとする山岳地での登山、スキーのほか、湖沼での水上アクティビティなども盛んに行われている。



日光東照宮(陽明門)



英国大使館別荘記念公園



明智平からの眺望(ライトアップ奥日光)

（Ｂ）鬼怒川エリア

鬼怒川エリアは、大温泉地である鬼怒川・川治温泉のほか、秘湯として知られる湯西川温泉、奥鬼怒温泉郷等、多くの温泉地が点在する。特に江戸時代に発見された鬼怒川温泉は、大規模な温泉旅館が建ち並ぶほか、大型のテーマパークなど、キャパシティの大きな観光資源も所在する。

自然景観では、鬼怒川沿いに広がる渓谷が特徴となっている。温泉地近辺では、渓谷沿いを中心に遊歩道が整備されているほか、夏季はライン下りやラフティングなどの川を活用したアクティビティが、冬季は奥鬼怒でのスノーシューなどの雪を活用したアクティビティが提供されており、宿などを基点に気軽な自然体験ができる。

また、鬼怒川温泉街では春の夜桜ライトアップや秋の「月あかり花回廊」、湯西川では夏の「竹の宵まつり」や冬のかまくら祭等、季節ごとのライトアップイベントが実施されている。



鬼怒川ライン下り



龍王峡(秋)



奥鬼怒温泉郷

（Ｃ）那須・甲子エリア

那須・甲子エリアは、茶臼岳を中心とした那須連山や甲子山が脊梁となり、そこを源流とした阿武隈川や那珂川の溪流や、山麓に広がる高原の森林が特徴。それらの資源を活用した登山やトレッキング、ハイキング等の利用が盛んで、初心者から上級者までレベルに合わせた利用ができる。

開湯 1390 年を超える歴史を誇る鹿の湯を中心とした那須温泉郷、国民保養温泉地である板室温泉のほか、御神火祭、国指定名勝・史跡「殺生石」など、火山に関連する観光資源が多数存在する。那須高原は、牧場や美術館などの観光施設が点在し、大人から子どもまで楽しめる高原リゾートとして知られており、那須御用邸が所在する皇室ゆかりの地でもある。また、那須平成の森や栃木県立自然の家、国立那須甲子青少年自然の家など、自然体験、環境教育の拠点施設も充実している。



御神火祭



国指定名勝・史跡「殺生石」



紅葉の茶臼岳

（Ｄ）塩原エリア

塩原エリアは、開湯 1200 年超の歴史を持ち、日本の温泉の泉質 10 種類のうち 6 種類、3 性質 7 色の湯が湧出する塩原温泉郷を擁する。

箒川沿いに広がる塩原溪谷には遊歩道が整備されており、塩原温泉ビジターセンター主催のガイドツアー等が多数行われているほか、溪谷を活用したカヤック、ダム湖を活用したスタンドアップパドルボードなど、様々なアクティビティが提供されている。また、八方ヶ原はツツジの名所として知られ、遊歩道も整備されており、山の駅たかはら等を拠点にハイキング等も楽しめる。



塩原温泉郷



塩原溪谷(回顧の滝・秋)



スタンドアップパドルボード

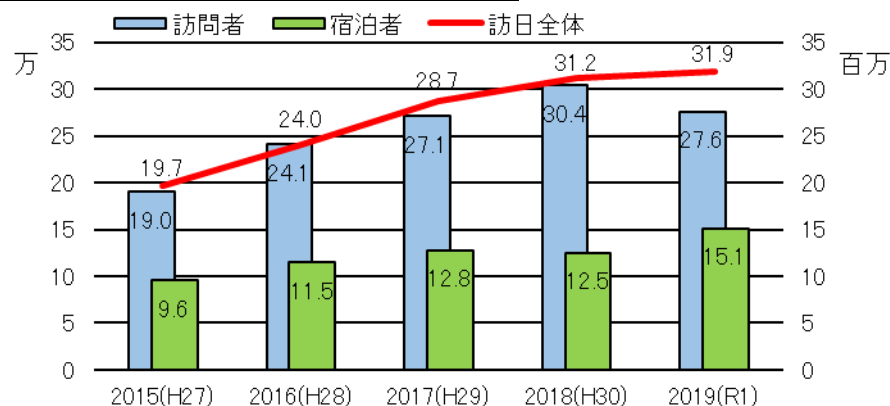
(2) 観光客の状況

ア. 外国人観光客の状況

2019(令和元)年度推計では、約 27.6 万人の外国人が日光国立公園を訪れており、約 15.1 万人が日光国立公園及びその周辺に宿泊している。以上のことから、日光国立公園を訪れる外国人観光客は、半数弱が日帰りでの訪問であることが推測できる。

ステップアッププログラム 2020 の計画期間中では、訪問者数は約 145%、宿泊者数は約 156%増加しているが、数値目標であった利用者数 50 万人、宿泊者数 25 万人には大きく届いていない。また、訪日外国人観光客全体と比較すると、伸び率はほぼ同じかやや鈍く、訪問先として選択される割合は上がっていないものと考えられる。

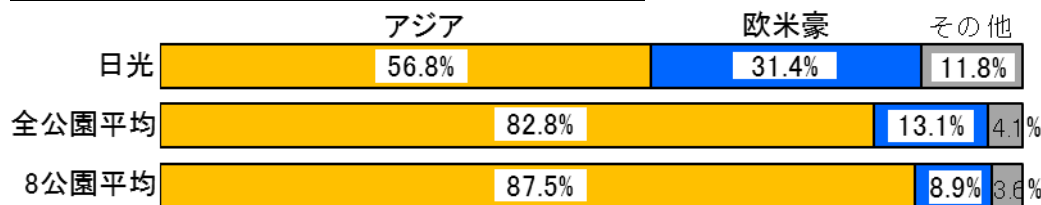
＜日光国立公園外国人利用者・宿泊者数の推移＞



観光庁統計、環境省推計及び観光客入込数・宿泊数推定調査による。※H27・28 は片品村分を含まず。

また、国立公園全体の訪問者では、アジア系が 8 割以上であるのに対し、日光国立公園では、アジア以外からの訪問者が 4 割を超え、特に欧米豪が 3 割超となっており、全国的な傾向と比較して、日光国立公園を訪問する外国人観光客は、アジア系の割合が低く、欧米豪の割合が非常に高い傾向にある。

＜日光国立公園外国人利用者の割合(2019 年)＞



環境省推計による。

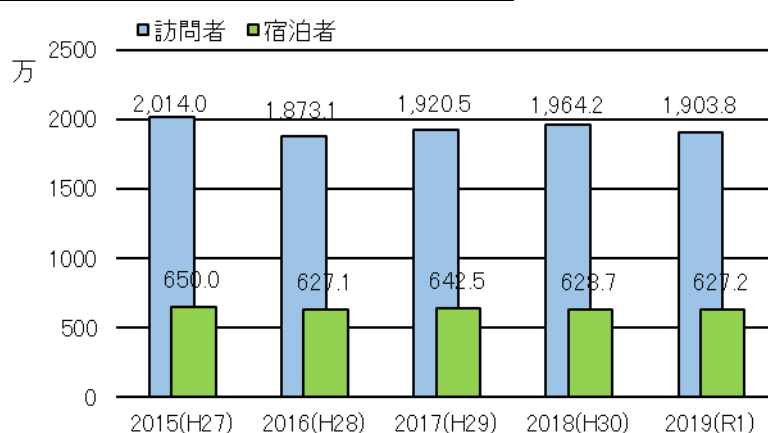
なお、2020(令和2)年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、訪日外国人観光客の入国が制限されており、利用者・宿泊者ともに、ほぼ 0 であると推定される。

イ. 日本人を含む観光客全体の状況

2019(令和元)年度の利用者数推計値では、約1,903.8万人が日光国立公園を訪れており、また、宿泊者数推定値では、約627.2万人が日光国立公園及びその周辺に宿泊している。以上のことから、日光国立公園を訪れる観光客の約7割が日帰りでの訪問であることが推測できる。

ステップアッププログラム 2020 の計画期間中には、とちぎデスティネーションキャンペーンや日本の旬北関東、日本の旬国立公園等の大型観光キャンペーンが実施されたものの、利用者数・宿泊者数ともに微減している。

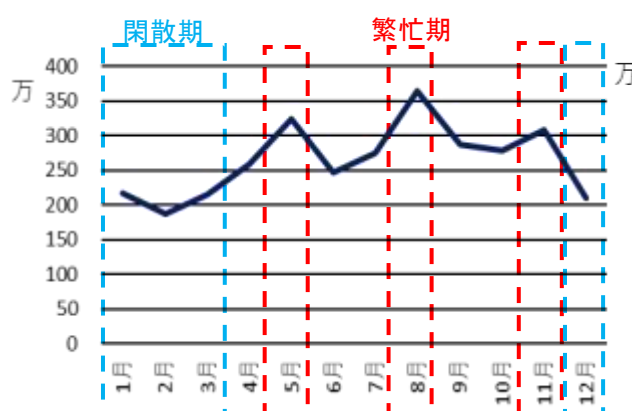
<日光国立公園観光客入込数・宿泊数の推移>



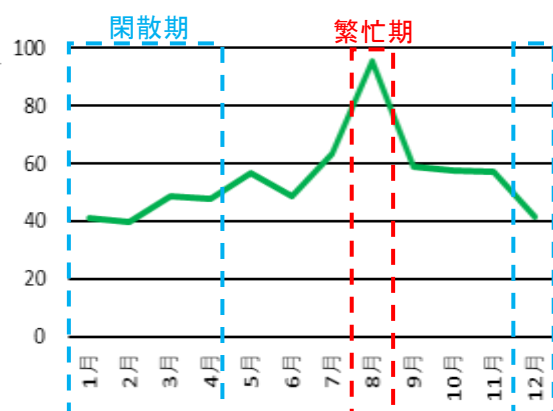
観光客入込数・宿泊数推定調査による。

また、月別の観光客入込数及び宿泊数を見ると、5月の連休や夏休み、紅葉シーズンなどに観光客が集中しており、特に宿泊数については、8月の夏休み期間に一極集中している。一方で、冬季(12月～翌4月)は観光客数が落ち込む傾向がある。

<2019(R元)年日光国立公園観光客入込数>



<2019(R元)年日光国立公園観光客宿泊数>



観光客入込数・宿泊数推定調査による。

ウ. 観光客の消費動向

訪日外国人1人当たりの消費額で比較すると、日光国立公園は8公園(※)の平均を大幅に下回っており、約6割の数値となっている。宿泊・飲食・体験・買い物の内訳で比較しても、いずれも平均以下の数値となっており、全体的に消費が鈍い傾向にある。特に体験費は平均の約4割と、アクティビティ等での消費が鈍い。

日本人1人当たりの消費額で比較すると、8公園平均の約8割の数値となっており、宿泊費では平均を上回っているものの、飲食・買い物については平均の7割程度と、若干消費が鈍い傾向にある。また、体験費が平均の4割以下と、アクティビティ等での消費が非常に鈍い。

※8公園：国立公園満喫プロジェクト先行モデルとして選定されている、阿寒摩周、十和田八幡平、日光、伊勢志摩、大山隠岐、阿蘇くじゅう、霧島錦江湾、慶良間諸島の8つの国立公園のこと。

＜国立公園内における観光客の1人当たり消費額＞

日光									
外国人					日本人				
全体	うち宿泊費	うち飲食費	うち体験費	うち買い物費	全体	うち宿泊費	うち飲食費	うち体験費	うち買い物費
37,081	18,789	6,087	937	4,913	22,921	12,188	3,173	676	2,178
8公園平均									
外国人					日本人				
全体	うち宿泊費	うち飲食費	うち体験費	うち買い物費	全体	うち宿泊費	うち飲食費	うち体験費	うち買い物費
65,046	25,563	13,984	2,369	11,205	27,866	11,411	4,102	1,801	3,129

環境省 2019 年国立公園訪問者アンケートによる。

エ. 観光客の満足度

外国人・日本人ともに、年々満足度が低下している傾向にある。また、外国人に比べ日本人の満足度が低く、いずれの年も平均を下回っている。

不満点では、共通して、交通が不便、トイレが汚い、湿布や防寒着等を買える店がない、飲食店が少ない、施設営業時間が短い、土産物に魅力がない、人が多すぎる等が、外国人の意見としては、英語サインが少ない、キャッシュレス決済が使えない等が挙げられている。

＜国立公園利用者の満足度＞

	2017(H29)		2018(H30)		2019(R1)	
	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人
日光	53.0%	35.4%	47.6%	44.1%	42.7%	29.4%
8公園平均	38.1%	37.5%	47.0%	46.9%	43.9%	34.7%

環境省国立公園訪問者アンケートによる(「非常に満足」と回答した割合)。

オ．その他

2020(令和元)年に、日光エリアの中禅寺湖畔周辺と世界遺産周辺の2つのエリアに、1件ずつラグジュアリーホテルが開業し、ハイクラスな宿泊施設が増えたことで、富裕層の来訪が増加していると見られる。

また、with コロナ期において、密を避ける観点から、自然エリアの需要が高まっており、日光国立公園内でも特に自然が豊かなエリアへの来訪者や、キャンプ場の利用者が急増しているほか、テレワーク等の新たな勤務形態に対応し、国立公園内でのワーケーション(※)等、新しい利用形態の需要も見込まれている。

※ワーケーション：ワーク＋バケーションの造語。リゾート地等で休暇を過ごしなが
ら、テレワークで仕事をする事。

(3) 日光国立公園の課題

ア. 受入態勢整備

トイレの洋式化、標識や交通機関における案内の多言語化、フリーWi-Fi整備等、ステップアッププログラム 2020 の計画期間にも実施してきた整備が未完了の箇所もあることから、ハード整備の取組を継続していく必要がある。また、既存の施設においても、歩道等の老朽化箇所や災害での破損箇所の修繕、トイレ等の美化・清掃等が不十分で、利用者の満足度を下げている場合があることから、管理強化・上質化による質の維持・向上を行うことも重要になっている。

近年では、ワーケーションやウェルネスツーリズムなどの新たな利用への需要が高まっていることに加え、特に with コロナ期・after コロナ期においては、キャッシュレス決済や、MaaS(※)等、非接触型の新たなサービスの導入が求められていることから、新たなニーズに合わせた受入環境の整備が求められる。

また、自然ガイドやビジターセンター・案内所スタッフ等、現地対応を行う人材の確保が難しい状況にある。外国人への対応についても、英語力の不足や対応経験の少なさ等の課題が残るため、人材の育成や外国人対応力を含むおもてなしの向上等、ソフト面での受入態勢の充実も課題となっている。

※MaaS：Mobility as a Service の略称。ICT(情報通信技術)を活用し、鉄道、バス、タクシー、レンタカー等の交通を、1つのサービスとして予約や決済等を統一し、シームレスにつなぐシステムのこと。

イ. 観光消費額の増加

日光国立公園は、特に外国人観光客の消費額が非常に少なく、また、特に with コロナ期においては、大人数を一度に誘客することで、全体としての消費額を増やすことが難しいため、地域全体で消費を促進し、1人当たりの消費額を増やすことで、全体の消費額を底上げしていくことが大きな課題となっている。

また、訪日外国人・日本人ともに日帰りでの訪問者が多く、宿泊にはつながっていないため、夜間や朝のコンテンツを含む現地プログラムの充実及び利用促進による滞在時間の延長、多様なニーズに応じたプランや宿泊施設等の整備、国立公園内での広域周遊の促進等により、宿泊型・滞在観光を促進していくことも重要となっている。

ウ．閑散期を中心とした誘客の促進

観光客が特定の時期や場所に集中しており、繁忙期においては、利用集中箇所でのオーバーユースや、道路交通のボトルネック箇所、駐車場の不足等が原因となり渋滞が発生し、観光流動の阻害となる、満足度の低下につながるなどの弊害が起こっている。反面、冬期は大幅に利用者が減少する傾向にあり、宿泊施設や飲食・物産店、観光施設等が冬期休業している場合もある。冬期コンテンツの充実や磨き上げ、誘客プロモーション等を積極的に実施し、閑散期の誘客促進による繁閑の平準化を図ることが課題となっている。

エ．交通の利便性向上

鉄道や高速道路、高速バスなど、幹線となる交通機関による国立公園までのアクセスが充実している一方、公園内においては、公共交通が未整備である、移動に時間がかかる、公共交通があっても本数が少ない、タクシーが常駐していない等、枝線となるアクセスが不十分であることや、交通に関する情報が乏しい、外国語に対応していない等の理由から、特に訪日外国人にとって利用しづらく、周遊機会が失われている状況にあり、二次交通の充実や、新たな公共交通システム導入の検討による交通機関の利便性の向上が求められている。

また、国立公園内の各エリアをつなぐ公共交通機関が乏しく、エリア間の周遊が難しい状況にある。特に那須エリア～日光エリア間を移動する場合は、宇都宮市まで戻ってアクセスしなければならず、日光・鬼怒川や那須・塩原などの隣接エリアでも、エリア間をつなぐバスの本数が少なく、交通結節点まで戻ってのV字アクセスとなるなど、国立公園内を移動するための地域内交通の整備が課題となっている。

オ．情報発信・案内力の強化

国立公園内の個別の観光資源についての情報発信は積極的に実施されているものの、日光国立公園と関連させた発信が少なく、観光客のみならず、地域住民や観光関係者からも、国立公園であることが認知されていない状況にある。

また、国立公園内の観光資源や、公園内で提供されているアクティビティの情報を一括で発信する窓口やWebサイトが無く、自治体単位や事業者単位での発信となっており、また、窓口での対面案内においても、当該エリア以外の情報が不足しており、十分な案内ができない場合も多く、観光客が現地情報を得るための案内力の強化が課題となっている。

特に with コロナ期・after コロナ期においては、非接触で情報を得られるよう、WebサイトやSNS、AI等を活用し、デジタルでの情報発信・案内機能を強化していくことが求められている。

カ．自然環境・景観の保全

近年、歩道等がない箇所への進入や道路外での路上駐車等による踏み荒らし、ゴミの不法投棄問題や駐車場でのキャンプ・たき火等の利用ルールやマナーの違反等、自然環境に悪影響を及ぼす事例が増加している。

また、景観を阻害している廃屋等の取扱いについての検討や、展望地での眺望確保のための枝落としや修景伐採、関係市町村における景観計画(※)の策定と適切な運用など、国立公園全体での良質な景観の保全について検討し、継続して実施していく必要がある。

国立公園内においては、最大の魅力である自然環境や景観を保全するため、適正な利用につなげていくとともに、脱炭素化など、自然環境と調和した取組を強化していくことが重要となっている。

※景観計画：景観法に基づいて定める、地域の景観形成のための総合的な基本計画のこと。

日光国立公園内では、栃木県日光市・那須塩原市・那須町の3市町が策定。

2. コンセプトと取組の方針

(1) 日光国立公園のコンセプト（基本概念）

日光国立公園は、世界文化遺産やラムサール条約湿地など、世界に認められた貴重な観光資源があり、豊富な水資源や森林を中心とした日本ならではの自然景観、歴史・文化、温泉など、皇族や華族、外国大使にも愛された上質で奥深い「プレミアムな魅力」と触れ合うことができる。また、東京から約2時間という近距離にありながら、都会とは全く違う魅力を全身で体験したり、都会の喧噪を離れた癒やしの時を過ごしたりすることができる。

NIKKO is NIPPON

自然・歴史・文化 美しい「日本」を感じられる
東京圏のプレミアムリゾート



ラムサール条約湿地
戦場ヶ原



世界文化遺産 神橋



那須平成の森・駒止の滝
(那須御用邸敷地の一部)

プレミアムな魅力



塩原天皇の間記念公園
(旧塩原御用邸)



鬼怒川温泉

東京から約2時間



（２）目指す姿と取組の方針

ア．上質で奥深い魅力を満喫できる国立公園

観光資源の磨き上げや良質な景観の保全により、日光国立公園の魅力を向上させるとともに、ハード・ソフトの両面で観光客の受入態勢を整備し、訪れやすく過ごしやすい環境を整え、快適でストレス無くプレミアムな魅力を楽しむことができる国立公園を目指す。

イ．体験・滞在型の国立公園

各エリア間の連携を強化し、地域内での周遊を促進するとともに、特に宿泊促進や繁閑平準化のための冬季誘客につながる新たな体験メニューの創出を図り、情報発信力・案内機能を強化する。また、公共交通、タクシー、レンタカー、自転車等の交通機関を充実させるとともに、新たな公共交通システムの導入を検討し、点ではなく線・面的に周遊できる仕組みを作ることで、国立公園内で長期滞在し、地域ごとに特色が異なる自然や文化を体験しながら、表面的な魅力だけでなく、本質的な部分まで味わえる国立公園を目指す。

ウ．脱炭素・循環型を実現する国立公園

国立公園の利用ルール・マナーの普及啓発や、適正利用の促進、受益者負担による保全制度の創出等により、持続可能な自然環境の保全を行っていくとともに、EV等の次世代自動車の活用、再生可能エネルギーの活用など、CO₂等の排出を削減していくゼロエミッションの取組を進めることで、地域の自然環境を守りながら、地球環境とも調和し、豊かな自然と共生する国立公園を目指す。

(3) ターゲットとする利用者層

ア. 海外誘客のターゲット

他の国立公園と比較し、来訪の多い欧米系の個人旅行者を中心に、近年増加傾向にある東アジアやASEAN諸国などのアジア市場も開拓していく。

課題の一つである旅行者一人当たりの消費額を増加させるため、アクティビティ等で積極的な消費の見込めるファミリー層やハネムーン等も積極的に誘客していく。また、エリア内に2件のラグジュアリーホテルが所在する日光エリアを中心に、富裕層をターゲットとし、施設整備や観光資源の磨き上げを行いながら、誘客していく。

イ. 国内誘客のターゲット

これまで行ってきた全般的な観光誘客策を継続して実施するとともに、各地域の特色を生かし、テーマに沿った誘客を実施する。

(A) ワークेशन・ブレジャー等によるビジネス層の誘客

宿泊施設や飲食店、公共施設等でのワークेशनや、MICE(※)等の誘致に伴うブレジャー(※)に取り組んでいくことで、ビジネス層や、その家族の誘客を図る。

主な取組地域：全域

※MICE：Meeting, Incentive travel, Convention, Exhibition/Event の総称。

企業等の研修旅行や会議、展示会等のビジネスイベントのこと。

※ブレジャー：ビジネス＋レジャーの造語。出張先で業務後に旅行も楽しむこと。

(B) ウェルネスツーリズムによる中高年層の誘客

鬼怒川・川治温泉地区を中心に中高年層の健康に対する意識の変化を捉え、企業等と連携しながら、自然や温泉等の観光資源を生かした健康ツアー等により、新たな需要の創出を図る。

主な取組地域：鬼怒川・川治温泉、塩原温泉郷

(C) スポーツツーリズムによるアクティブ層の誘客

登山、サイクリング、オリエンテーリング、各種の水上アクティビティ等、自然を生かして提供されている様々なスポーツ資源を核に、コンテンツの充実やイベントの開催等を通じた誘客を図る。

主な取組地域：八方ヶ原

3. 目標

(1) 数値目標

with コロナ期・after コロナ期においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響による観光流動の減少からの早期回復を目指しつつも、密を避ける観点から、利用者数・宿泊者数の大幅な増加ではなく、1人当たりの観光消費額の底上げによる観光消費額の増加を主要な目標として掲げる。

また、入国制限が緩和され、訪日外国人観光客の来訪が再開されるまでの当面の間は、訪日外国人利用者・宿泊者数は参考数値として設定する。日本人観光客数についても、with コロナ期においては、旅行等の自粛要請が出されるなど、単純に増加させるのが難しい状況にあることから、当面の間は、参考値として感染拡大前の水準までの回復を目指す。

コロナウィルス感染症の収束の目途が立ち次第、改めて参考値となっている観光客数等の目標について再検討し、ステップアッププログラムを改定する。

ア. 1人当たりの観光消費額

現状では8公園の平均値を下回っているものの、日光国立公園のポテンシャルを生かした自然体験・文化体験等のアクティビティの活性化や、宿泊の促進等により消費額を底上げすることで、2019(令和元)年調査での先行8国立公園の平均値と同等の水準とすることを目標とする。

○日本人消費額



○訪日外国人消費額(参考値)



※ 環境省 2019 年国立公園訪問者アンケート結果による。

イ．観光客入込数・宿泊者数（参考値）

当面の間は参考値として設定し、コロナ前の水準までの回復を目指す。

観光客入込数	観光客宿泊数
1,904万人※	628万人※

※ 2019(令和元)年観光客入込数・宿泊数推定調査結果を基準とする。

ウ．訪日外国人利用者数・宿泊者数（参考値）

当面の間は参考値として設定し、コロナ前の水準までの回復を目指す。

訪日外国人利用者数	訪日外国人宿泊者数
28万人※1	15万人※2

※1 2019(令和元)年 環境省国立公園別実利用者数推計値を基準とする。

※2 2019(令和元)年 観光客入込数・宿泊数推定調査結果を基準とする。

（２）質的目標

受入態勢整備や観光資源の磨き上げによる質の向上、滞在・周遊の快適性・利便性の向上、おもてなしの向上等に取り組み、現在の不満点を解消するとともに、観光客が日光国立公園に求める期待値と実際に訪れてからのギャップを無くし、期待感を上回るような取組を進めていくことで、満足度の向上を図る。

4. プロジェクトの実施

(1) 日光国立公園全体での重点取組事項

これまでの成果や課題を踏まえ、2. (2) で示した3つの柱の実現に向け、国・自治体・民間事業者等のそれぞれが主体となり、重点的に取り組んでいく。

ア. 上質で奥深い魅力を満喫できる国立公園

(A) 既存施設再整備と維持管理、上質化

専門家による多言語化やトイレ洋式化、W i e F i 環境の整備等による外国人対応、ユニバーサルデザイン化等の再整備を進めながら、適切な施設の美化清掃、老朽化・破損した施設の修繕等を行うことで、施設の上質化を図る。

特に、トイレ等の利用施設が原因で満足度を下げている現状を鑑み、トイレの整備状況や管理体制を見直し、施設管理者が連携して全てのトイレが快適に利用できる体制づくりを行っていくことで、日本一きれいなトイレを目指す。

(B) 良質な景観の保全

市町村で景観計画を策定し、各事業者等が計画に定められた景観形成基準等を遵守しながら、自然と調和する街並み景観を保全するとともに、廃屋の取扱い方針の検討や眺望を阻害する樹木等の修景伐採等を行い、景観・眺望の回復に努める。

(C) 新しい利用形態や需要への対応

ウェルネスツーリズムやスポーツツーリズム等のニューツーリズム(※)の促進や、M I C E・ブレジャーの促進等、自然エリアでの新たな需要に対応する取組を実施する。

また、宿泊施設等でのワーケーションの推進や、店舗等でのキャッシュレス化の推進、M a a Sの導入、バーチャルツアーの実施など、特に with コロナ期・after コロナ期に求められる新たな利用形態に対応できる仕組みづくりを進める。

※ニューツーリズム：従来の観光旅行と異なる、テーマ性の強い体験型の旅行のこと。

（Ｄ）人材の育成

案内所やビジターセンター、交通機関、宿泊施設、観光施設等での多言語対応の強化やおもてなし向上を図るとともに、自然ガイド認定制度の創出等を通じ、質の高い人材の確保・育成により、受入態勢を整える。

イ．体験・滞在型の国立公園

（Ａ）宿泊・閑散期誘客につながるコンテンツの強化

夜間や朝の体験コンテンツの造成と磨き上げ、飲食物産店等の営業時間の延長等の宿泊の促進につながる取組や、冬季を中心とした閑散期の誘客促進につながる取組を重点的に実施する。

（Ｂ）コンテンツの充実と上質化、情報発信・案内機能の強化

eバイクを活用したサイクリング等の新規のコンテンツ開発や、既存コンテンツの磨き上げにより、現地での体験コンテンツ・アクティビティ等の充実と上質化を図る。

合わせて、WebサイトやSNS等を活用した個別の情報発信の強化に加え、AI等を活用した案内の導入や、国立公園として一元的な情報発信を行うサイトや、アクティビティ等のプラットフォームとなるようなサイトを整備するなど、観光客が情報の入手や予約等をしやすい環境を整える。

（Ｃ）連携強化

自然ガイド・アクティビティ事業者の組織化や、自然ガイドと通訳案内士の連携等の事業者同士の連携、官民の連携を図りながら、コンテンツ充実や施設整備等を進めていく。

また、新たな公共交通システムの導入等により、エリア内での二次交通を充実させ、交通の利便性の向上を図るとともに、国立公園エリア内及び国立公園周辺エリアや、隣接する尾瀬国立公園等の近隣の国立公園を結ぶモデルコースの造成、エリア内を横断するロングトレイルやサイクリングツアー等の活用により、公園内での周遊を促進する。

合わせて、エリア間で日光国立公園の特徴やストーリー、各エリアの情報について共有することで、ビジターセンターや案内所、宿泊施設等の窓口で国立公園全域の情報を案内できる体制を作っていく。

ウ．脱炭素・循環型を実現する国立公園

（Ａ）受益者負担による環境保全

駐車場等の利用料金やガイド・アクティビティツアー料金等の一部を、施設整備や美化、環境保全等に充当する仕組みの検討や、自然体験や環境保全活動等に参加しながら学ぶSDGs ツアーの創出を図る。また、各市町でエコツーリズム推進団体としての認定を目指し、エコツーリズムを通じた自然環境の保全や、ガイド専用エリアの設定等によるオーバーユースの抑制を通して、受益者負担による持続可能な環境保全活動の仕組みづくりと、環境意識の向上を目指す。

（Ｂ）ルール・マナーの普及啓発と適正利用

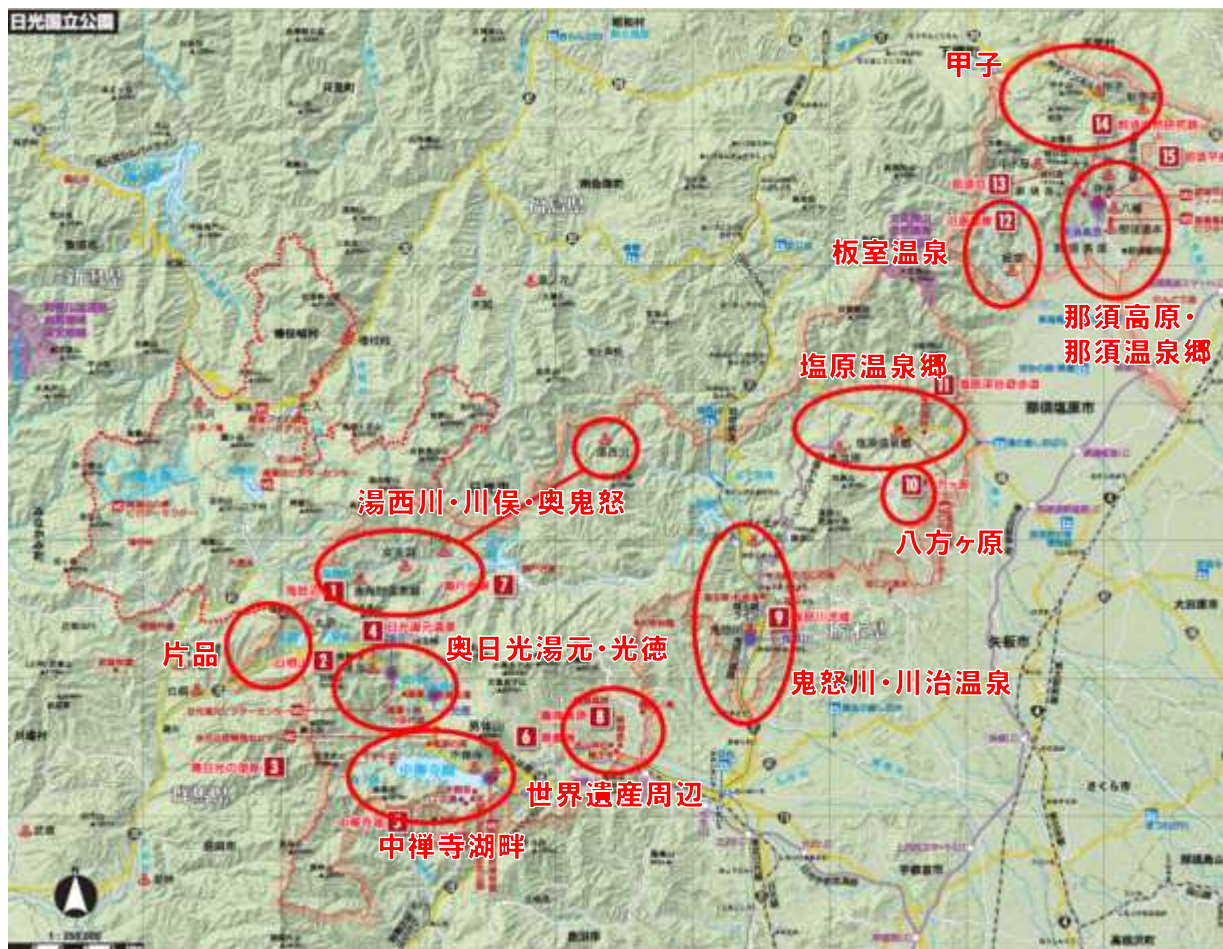
国立公園の利用ルール・マナーの普及啓発を行い、歩道外の踏み荒らし対策やゴミ対策、駐車場の利用適正化等、自然エリアや公園施設等の適正利用を図ることで、国立公園の魅力の核となる自然の持続可能な利用に努める。

（Ｃ）脱炭素に向けた取組の推進

ＥＶ・ＦＣＶ車の利用促進やＭaaSでのＥＶ車の活用や、県有施設での再生エネルギーの活用等により、脱炭素の取組を実施する。

あわせて、駐車場への充電器の設置など、ＥＶの利用環境を整えるとともに、環境保全に配慮した事業者や利用者が優遇されるような仕組みを検討し、環境配慮型の国立公園としての魅力向上を図る。

(2) 各エリアの取組方針



エリア概要図

エリア名	詳細地域名	主な資源
日光エリア	世界遺産周辺	世界文化遺産「日光の社寺」、霧降高原
	中禅寺湖畔	中禅寺湖、華厳ノ滝、竜頭ノ滝、国際避暑地記念施設
	奥日光湯元・光徳	ラムサール条約湿地「奥日光の湿原」、湯元温泉
	片品	白根山、丸沼
鬼怒川エリア	鬼怒川・川治温泉	鬼怒川温泉、川治温泉、鬼怒川渓谷
	湯西川・川俣・奥鬼怒	湯西川温泉、川俣温泉、奥鬼怒温泉郷、鬼怒沼
那須エリア	那須高原・那須温泉郷	那須岳、那須湯本温泉、那須平成の森
	板室温泉	板室温泉、沼ッ原湿原
	甲子	那須岳、甲子温泉
塩原エリア	塩原温泉郷	塩原温泉郷、塩原渓谷
	八方ヶ原	八方ヶ原、おしらじの滝、スッカン沢

ア. 日光エリアの取組 ～水環境と調和した歴史遺産めぐり

(A) 世界遺産周辺

I. 概要

世界遺産・日光の社寺を中心とした歴史・文化エリア。社寺の門前町や日光田母沢御用邸記念公園等、様々な歴史・文化遺産があり、外国人観光客が特に集中している。写経体験や着付け体験等の歴史・文化体験やガイドツアーも多数実施されている。また、霧降地区は霧降高原や霧降ノ滝を中心とした自然エリアとなっており、スキー場跡に遊歩道が整備されているほか、滝のガイドウォークや冬季のスノーシューなどのアクティビティが提供されている。



日光田母沢御用邸記念公園



写経体験（日光山輪王寺）



霧降高原キスゲ平園地（初夏）

II. 取組方針

歴史ガイドツアーや文化体験、霧降高原での自然体験等を中心に磨き上げを行うとともに、数多く訪れる観光客を、他エリアに周遊させる仕組づくりを行う。

III. 実施内容

重点取組	内容	実施主体
7. (A)	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県・日光市
	J R日光駅へのエレベーター設置	栃木県・民間事業者
7. (B)	電線類の地中化及び歩道拡幅（東武日光駅～神橋間）	栃木県
7. (C)	環境配慮型観光M a a Sの導入	栃木県・日光市・民間事業者
4. (B)	文化体験メニュー、歴史ガイドツアー等の充実	民間事業者
	自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	民間事業者
4. (C)	観光案内所、宿泊施設等での他エリアの情報発信	民間事業者
	神橋周辺の渋滞対策	栃木県・日光市・国土交通省・民間事業者
	中禅寺湖畔と連携した周遊策（別荘めぐりスタンプラリー）の実施	栃木県・日光市・民間事業者

(B) 中禅寺湖畔

I. 概要

中禅寺湖周辺の自然エリア。男体山や、中禅寺湖・華厳ノ滝・竜頭ノ滝等の水資源等の豊かな自然環境のほか、旧外国大使館別荘などの国際避暑地としての歴史、山岳信仰の聖地としての歴史等、自然・歴史・文化的な資源を多数有している。



竜頭ノ滝(春)



イタリア大使館別荘記念公園



中禅寺湖カヌーピクニック

II. 取組方針

国際避暑地としての歴史や中禅寺湖の自然、景観を体感できる一体的な施設整備を行うとともに、水上交通やレンタサイクル、歴史ガイドツアー、自然体験ツアーなど多様なプログラムの創出や磨き上げによるアクティビティの整備・拡充を行う。奥日光の玄関口としての情報発信機能強化や、ラグジュアリー層からアウトドア層まで多様なニーズに対応できる宿泊施設の整備など、受入環境の整備を行っていく。

III. 実施内容

重点取組	内容	実施主体
7. (A)	トイレの整備・美化等による満足度向上	環境省・栃木県 ・日光市
	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県・日光市
	遊歩道等の再整備	栃木県
7. (B)	修景伐採の実施	栃木県・日光市
7. (C)	国際避暑地記念施設等を活用したユニークベニユーの充実	栃木県・ 民間事業者
	多様なニーズに応える上質なアウトドアリゾート空間の整備	民間事業者
	環境配慮型観光MaaSの導入	栃木県・日光市 ・民間事業者
	国際避暑地記念施設でのワーケーションの実施	栃木県・ 民間事業者

重点取組	内容	実施主体
イ. (A)	ライトアップ奥日光の実施	栃木県・日光市 ・民間事業者
	低公害バスを活用した夜間バスツアーの実施	環境省・ 民間事業者
イ. (B)	歴史ガイドツアーの開発の検討	民間事業者
	自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	民間事業者
イ. (C)	県営駐車場等へのサイクルステーションの設置	栃木県
	いろは坂周辺の渋滞対策	栃木県・日光市
	電動アシスト自転車でのシェアサイクルの実施	栃木県・ 民間事業者
	新たな公共交通システムの導入検討	栃木県・日光市・ 民間事業者
ウ. (A)	受益者負担による環境保全の仕組みの検討	環境省・栃木県
ウ. (B)	駐車場の適正利用に向けた検討・再整備	栃木県
ウ. (C)	E V 充電器の設置	環境省・栃木県 ・民間事業者
	低公害バス路線へのE Vバスの導入	栃木県・ 民間事業者
	県有施設の再生可能エネルギー導入、省エネ対策の検討	栃木県

(C) 奥日光湯元・光徳

I. 概要

ラムサール条約湿地「奥日光の湿原」や湯ノ湖等の水資源、白根山等を中心とした自然エリア。赤沼自然情報センター、日光湯元ビジターセンター等、周遊のための拠点施設も充実しているほか、国民保養温泉地である奥日光湯元温泉も所在している。



小田代原(ラムサール条約湿地)



光徳クロスカントリースキー



奥日光湯元温泉(源泉)

II. 取組方針

拠点施設の機能強化や情報発信力の強化、モデルコース整備等によりエリア内周遊の充実を図るほか、環境学習プログラムの創出や冬季を含むアクティビティメニューの拡充等に取り組む。

III. 実施内容

重点取組	内容	実施主体
7. (A)	トイレの整備・美化による満足度向上	環境省、栃木県、日光市
	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	環境省・日光市
	遊歩道再整備及びITを活用した標識の整備	環境省・栃木県
	白根山避難小屋の再整備	栃木県
	自転車道の整備	栃木県
	日光湯元ビジターセンター等の湯元集団施設地区の再整備及び民間開放	環境省
7. (B)	修景伐採の実施	環境省
7. (C)	アウトドア活動拠点の充実・強化	環境省・民間事業者
	環境配慮型観光MaaSの導入	栃木県・日光市・民間事業者
4. (B)	赤沼自然情報センターの再整備・機能強化	栃木県・民間事業者

重点取組	内容	実施主体
イ. (B)	自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	民間事業者
ウ. (A)	受益者負担による環境保全の仕組みの検討	環境省・栃木県
ウ. (B)	駐車場の適正利用に向けた検討・再整備	栃木県
ウ. (C)	E V 充電器の設置	環境省、栃木県、民間事業者

(D) 片品

I. 概要

尾瀬国立公園に隣接し、日光白根山を望む山岳地に丸沼、菅沼などを含む、自然豊かなエリア。グリーンシーズンには白根山登山や菅沼でのカヌーやスタンドアップパドルボード、ホワイトシーズンにはパウダースノーのスキー場など、四季を通じて自然を楽しむ事ができる。



日光白根山



スタンドアップパドルボード(菅沼)



丸沼ダム

II. 取組方針

自然そのものと向き合う、田舎ならではのプログラム作りを行う。二次交通対策事業として湯元温泉⇄片品線を利用した周遊プログラムの構築、白根山・男体山・金精山の奥日光周遊登山、宿泊型の構築を目指す。

III. 実施内容

重点取組	内容	実施主体
7. (A)	案内標識の統一化と整備	片品村
4. (B)	自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	民間事業者
	国の重要文化財である「丸沼ダム」ツアーの充実	片品村・片品村観光協会
4. (C)	二次交通対策事業（湯元温泉⇄片品線）	民間事業者
	近郊周遊プログラムの構築と合わせ宿泊型ツアーの構築	片品村・片品村観光協会

イ. 鬼怒川エリアの取組 ～温泉と楽しむ手軽な自然体験

(A) 鬼怒川・川治温泉

I. 概要

鬼怒川渓谷沿いに温泉街が立ち並ぶ温泉エリア。温泉街のまち歩きや、日光江戸村等の大型のテーマパーク等が楽しめるほか、鬼怒川ライン下りやラフティング等の渓谷を活かした様々なアクティビティも提供されている。



鬼怒川温泉街



日光江戸村



ラフティング

II. 取組方針

温泉と自然散策を組み合わせた健康体験や、温泉地を拠点にした手軽な自然体験が楽しめる場所として、散策路の整備や自然体験メニューの磨き上げを行う。あわせて、季節の自然を活かしたライトアップイベント等の夜間コンテンツを磨き上げ、さらなる宿泊促進を目指す。

III. 実施内容

重点取組	内容	実施主体
7. (A)	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県
	遊歩道の再整備	栃木県
7. (B)	修景伐採の実施	栃木県
1. (A)	季節の自然を活かしたライトアップイベントの磨き上げによる地域の回遊性向上・宿泊促進	民間事業者
1. (B)	自然体験メニュー、ガイドツアー、まち歩き等のツアープログラムの充実	民間事業者
	自然、テーマパーク、旅館内のジム等を活用した健康になれる温泉地づくり（ウェルネスツーリズムの推進）	民間事業者

(B) 湯西川・川俣・奥鬼怒

I. 概要

瀬戸合峡など渓谷の景観や高層湿原「鬼怒沼」などが楽しめる自然エリア。湯西川温泉は、平家の隠れ里として知られる歴史・文化エリアでもあり、秘湯の温泉地としても知られている。日光国立公園内でも特に雪の多い地域で、冬季には雪を活かしたイベントやアクティビティも行われている。



瀬戸合峡 渡らっしゃい吊橋



鬼怒沼トレッキング



湯西川温泉かまくら祭

II. 取組方針

温泉地を拠点にトレッキング等が楽しめるよう、散策経路を中心に整備を行うとともに、平家の隠れ里としての独特の歴史・文化や、自然環境、温泉等を活かし、手軽に秘境感を体験できる場として整備する。

III. 実施内容

重点取組	内容	実施主体
7. (A)	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県
	遊歩道の再整備	栃木県
1. (B)	自然・文化体験メニュー、ガイドツアー等の充実	民間事業者

ウ. 那須・甲子エリアの取組 ～山や森とふれあうロイヤルリゾート

(A) 那須高原・那須温泉郷

I. 概要

那須連山と山麓の豊かな森林が広がる自然エリア。開湯 1390 年超の古湯・那須湯本温泉などの温泉地も点在する。那須御用邸のある皇室ゆかりの地でもあり、御用邸敷地の一部は、那須平成の森として一般開放されている。隣接のリゾートエリアには、美術館や牧場等、様々な観光施設が点在しているほか、自転車の利用も盛んで、ライドイベント等も実施されている。茶臼岳は、ロープウェイの利用が可能で、初心者から上級者まで、レベルに合わせた登山やトレッキング等が楽しめる。



那須湯本温泉(鹿の湯)



那須平成の森



那須ロープウェイ

II. 取組方針

那須平成の森や自然歩道、野営場等を活用し、手軽に森林の中での自然体験が楽しめる環境を整備する。また、周辺のリゾートエリアと連携した周遊コースを検討する。山岳地域では、登山利用者が安全かつ快適に利用できる環境の整備を行う。

III. 実施内容

重点取組	内容	実施主体
7. (A)	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	環境省・栃木県・那須町
	登山道・遊歩道の再整備、ICTを活用した標識類の設置	環境省
	野営場の再整備	環境省
	那須平成の森フィールドセンター、那須高原ビジターセンターの機能強化及び民間開放	環境省
7. (B)	修景伐採の実施	栃木県
7. (D)	ガイド育成システムの構築、那須平成の森等の研修拠点としての活用	環境省
4. (A)	殺生石ライトアップの実施	栃木県・那須町・民間事業者

重点取組	内容	実施主体
イ. (B)	自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	民間事業者
	e バイクでのセルフガイド付きレンタサイクルの実施	栃木県・ 民間事業者
	アウトドアグッズのレンタル	栃木県・ 民間事業者
イ. (C)	奥那須周辺の渋滞対策	栃木県・那須町 ・民間事業者
	県営駐車場内サイクルステーションの設置	栃木県

(B) 板室温泉

I. 概要

「下野の薬湯」と呼ばれ、綱につかまり、立ったまま深めの浴槽につかる「綱の湯」などの独自の湯治文化を持つ国民保養温泉地・板室温泉を擁する温泉エリア。ダム湖や溪流を活かしたカヌー等のアクティビティが提供されているほか、ホテルの鑑賞会等も行われている。



板室温泉(綱の湯)



板室ダム湖カヌー体験



天然ホテル鑑賞会

II. 取組方針

古くから湯治の里として親しまれてきたポテンシャルを活かし、温泉と周辺の自然体験とを組み合わせた新たなリフレッシュの場として整備する。

III. 実施内容

重点取組	内容	実施主体
7. (A)	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	那須塩原市
4. (B)	自然・文化体験メニュー、ガイドツアー等の充実	那須塩原市・ 民間事業者

(C) 甲子

I. 概要

一級河川阿武隈川の源流があり、一帯はブナやダケカンバの原生林をはじめ、山頂ではドウダンツツジやシャクナゲなど数多くの高山植物を見ることができる。甲子山頂からは那須連山が一望できる。また、四季折々の表情が水面に映りこむ姿が神秘的な観音沼森林公園を擁する。甲子温泉、新甲子温泉などの温泉にも恵まれている。



観音沼森林公園



雪割橋



甲子山

II. 取組方針

温泉やキャンプ施設を拠点に、遊歩道や登山道を活用したトレッキングなどの自然とのふれあいを安全かつ快適に活用できるよう、施設改修や既存施設等の利用を推進する。

III. 実施内容

重点取組	内容	実施主体
7. (A)	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	下郷町・西郷村
4. (B)	自然・文化体験メニュー、ガイドツアー等の充実	下郷町・西郷村 ・民間事業者

エ. 塩原エリアの取組 ～ 7 色の温泉と渓谷アクティビティ

(A) 塩原温泉郷

I. 概要

渓谷沿いに温泉街が広がり、6 泉質・7 色の温泉が楽しめる温泉エリア。多くの文人・墨客に愛された温泉地としても知られている。塩原温泉ビジターセンターによる自然体験ツアーや、渓谷を活かしたカヤックやスタンドアップパドル等のアクティビティも提供されている。



塩原温泉郷



ビジターセンターによるガイドツアー



箒川スタンドアップパドル

II. 取組方針

温泉を拠点に、本格的な自然体験が楽しめるよう、ガイドが使用する歩道等の整備や、自然体験プログラムの磨き上げ等を行う。

III. 実施内容

重点取組	内容	実施主体
7. (A)	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県・ 那須塩原市
	遊歩道の再整備、I T を活用した標識等の設置	栃木県
	塩原温泉ビジターセンターの機能強化	栃木県・ 那須塩原市
7. (B)	修景伐採の実施	栃木県・ 那須塩原市
1. (A)	塩原温泉竹取物語(ライトアップイベント)等の冬期・夜間コンテンツの充実に向けた検討	栃木県・那須塩原市・民間事業者
1. (B)	自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	那須塩原市・ 民間事業者
	e バイクでのセルフガイド付きレンタサイクルの実施	栃木県・ 民間事業者

(B) 八方ヶ原

I. 概要

ツツジの群生地として知られる自然エリア。遊歩道が整備されており、山の駅たかはら等を拠点にしたハイキング利用が可能。山の駅たかはらでは、滝巡りハイキングやスノーシューハイキングなどのイベントプログラムが提供されている。また、周辺では自転車のヒルクライムレースも行われている。



ツツジ群生地



山の駅たかはら



おしらじの滝

II. 取組方針

ツツジの群生地を中心に、安全かつ快適に利用できるよう施設整備を進めるとともに、山の駅たかはらを拠点としたハイキング、アクティビティ利用や、隣接する塩原温泉郷を拠点としたハイキング利用、栃木県民の森（敷地の一部が国立公園エリア）まで含めた広大な自然エリアを活用したハイキング、アクティビティ利用等を検討する。

III. 実施内容

重点取組	内容	実施主体
7. (A)	案内標識・トイレ等のユニバーサルデザイン化改修	栃木県・矢板市
	遊歩道の再整備	栃木県・矢板市
4. (B)	冬期を含む自然体験メニュー、ガイドツアー等の充実	栃木県・矢板市・民間事業者
	スポーツツーリズムの推進	矢板市・民間事業者
4. (C)	国立公園内のピストンバス運行による渋滞緩和対策（ツツジの時期）	矢板市

(3) 宣伝・誘客の方針

ア. 全体としての方針

本プログラムに掲げる日光国立公園のコンセプトや目標を全ての関係者が共有し、DMOやDMC(※)などを活用しながら、日光国立公園として一体的に情報発信を行っていくことで、日光国立公園全体での誘客を図る。

また、一体的な宣伝を実施する際には、世界的にも知名度のある「日光」のネームバリューや、東京に近いという利点を最大限に活用し、日光国立公園のプレミアムな魅力や、地域内での体験・滞在についてPRし、誘客を図る。

アクティビティ情報を一括で取得できるような一元化Webサイトを構築するほか、デジタルマーケティング等も積極的に行っていく。

※DMO：Destination Management Organization の略。

地域と協働して観光地づくりを行う、専門性の高い法人のこと。

DMC：Destination Management Company の略。

DMOと同様の活動を行う企業のこと。

イ．国内向けの宣伝方針

「日光国立公園」・「国立公園那須」等の文言を使うことで、国内向け観光パンフレットに「日光国立公園」としての記載を進めていき、国立公園エリア内も含めた日本人向けに知名度の向上を図るほか、消費額の増加や滞在時間延長による宿泊促進を図るため、自然体験・文化体験等のアクティビティやツアー等の情報を重点的に発信していく。合わせて、他地域にある観光案内所や、首都圏を中心とした周辺エリアの宿泊施設のコンシェルジュ等への積極的な情報提供や働きかけを行うことで、情報発信力を高めていく。

なお、宣伝・誘客に当たっては、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、感染拡大期には積極的な誘客を控える等の対応を行っていく。

ウ．海外向けの宣伝方針

新型コロナウイルスの状況を注視しながら、after コロナ期において、海外の旅行エージェントによる旅行商品造成や情報発信が促進されるよう、J N T O 等と連携しながら、旅行エージェントを招へいしたファムトリップの実施、自治体による海外プロモーションや旅行博でのP R、個別商談会への参加等により、日光国立公園の情報発信を行っていく。

after コロナ期においては、外国人観光客数の早期回復・増加に向け、積極的な誘客を行えるよう、改めて方針を検討し、ステップアッププログラムに反映する。

＜参考＞with コロナ期・after コロナ期における取組

with コロナ期においては、収束後の本格的な誘客策の実施に向け、受入態勢整備やコンテンツづくり等を重点的に実施しながら、知名度向上のための動画配信等によるPRや、旅行商品造成に向けた商談等を実施する。あわせて、キャッシュレス化やワーケーション推進等、コロナ期の新たな需要への対応を行っていく。国内向けの誘客促進策については、感染症の状況を注視しながら実施していく。

after コロナ期においては、with コロナ期からの取組を継続し、対策を取りながら、本格的な国内及び海外からの誘客を行っていく。

	withコロナ期		afterコロナ期
目標	○1人当たりの観光消費額の増加 ※外国人の観光消費額、観光客入込・宿泊数、訪日外国人利用者数・宿泊数は参考値 ○満足度の向上	感染症収束	○1人当たりの観光消費額の増加（日本人・外国人とも） ○観光客入込数・宿泊数の増加 ○訪日外国人利用者数・宿泊数の増加 ※収束後に目標値を再検討 ○満足度の向上
取組	既存施設再整備と維持管理 良質な景観の保全 新しい利用形態や需要への対応 人材の育成 宿泊等につながるコンテンツの強化 コンテンツの充実と上質化、情報発信力・案内機能の強化 連携強化 受益者負担による保全 ルール・マナーの普及啓発と適正利用 脱炭素に向けた取組の推進 ＜コロナ期の新たな需要に対応する取組例＞ ・キャッシュレス化の推進 ・MaaSの導入 ・ワーケーション等の推進 ・バーチャルツアーの実施 ・AI等を活用した非接触型の案内		
宣伝誘客	デジタルマーケティング等を活用した一体的な情報発信 感染症の状況を見ながらの国内誘客 afterコロナ期の海外誘客に向けた準備		
			本格的な国内誘客 本格的な海外誘客

5. 効果検証

（１）目標達成率による検証

毎年度、環境省が調査する国立公園訪問者アンケート結果により、1人当たりの消費額についての検証を行う。

また、参考値として、環境省国立公園別実利用者数推計値により日光国立公園利用者数推計値を、関連市町の観光客入込数・宿泊数推計調査により日光国立公園周辺の宿泊者数について、それぞれの推移を検証する。

（２）取組の進捗状況の検証

環境省及び自治体による施設整備の進捗や、各実施主体が行う様々な取組の進捗について、地域協議会等を通じて確認し、進捗状況を検証する。

（３）満足度の検証

毎年度、環境省が調査する国立公園訪問者アンケート結果により、観光客の満足度についての検証を行う。合わせて、不満に思う箇所の意見について精査し、今後の取組に反映させていく。

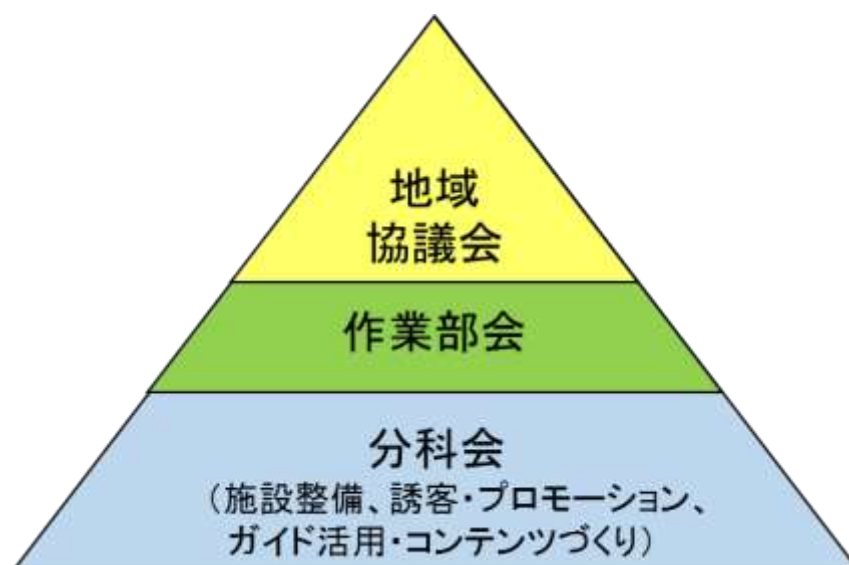
（４）検証内容の反映

効果検証の内容と本プログラムの取組状況を踏まえ、毎年、地域協議会及び作業部会において、前年までの取組状況を評価し、同協議会等での議論を通じて、必要に応じ、本プログラムを改定していく。

参考資料

1. 日光国立公園満喫プロジェクト地域協議会の構成

ア. 組織図



○地域協議会：最終意思決定機関。ステップアッププログラムの策定や、プロジェクトの進捗管理を行う。

○作業部会：各分科会からの意見等を元に、課題や取組内容、プロジェクトの進捗等について議論・検討し、地域協議会に提出する。

○分科会：各分科会が所管するテーマごとに、日光国立公園全域に関わる課題について議論・検討し、施策の立案につなげる。

※エリアごと・地域ごとの課題や取組については、各エリア・地域の実施主体が連携し、それぞれが主体的に議論・検討する。

イ. 日光国立公園満喫プロジェクト地域協議会構成員

所属	職名
関東地方環境事務所	所長
関東運輸局	観光部長
関東地方整備局	企画部長
関東森林管理局	計画保全部長
栃木県	環境森林部長
	産業労働観光部長
	県土整備部長
日光市	副市長
矢板市	総合政策部長
那須塩原市	副市長
塩谷町	産業振興課長
那須町	副町長
(公社)栃木県観光物産協会	会長
(一社)日光市観光協会	会長
矢板市観光協会	会長
塩原温泉観光協会	会長
黒磯観光協会	会長
(一社)那須町観光協会	会長
東日本旅客鉄道(株)大宮支社	営業部長
東武鉄道(株)	経営企画本部経営企画部参事役
野岩鉄道(株)	常務取締役鉄道部長
わたらせ渓谷鉄道(株)	総務企画部長
(一社)栃木県バス協会	専務理事
(一社)栃木県タクシー協会	専務理事
東日本高速道路(株)	那須管理事務所長
(株)下野新聞社	代表取締役社長
(株)とちぎテレビ	代表取締役社長
(株)エフエム栃木	代表取締役社長
(株)足利銀行	代表取締役頭取
(株)栃木銀行	代表取締役頭取
宇都宮大学	理事(研究・産学連携担当)・副学長

ウ. 日光国立公園満喫プロジェクト作業部会構成団体・構成員

所属	氏名
那須塩原市観光局	西須 紀昭
日光千姫物語	根本 芳彦
鬼怒川グランドホテル夢の季	波木 恵美
東京大学大学院農学生命科学研究科	山本 清龍
東日本旅客鉄道(株)大宮支社 営業部 販売課	
東武鉄道株式会社 経営企画本部	
(一社)栃木県バス協会	
(一社)栃木県タクシー協会	
(株)下野新聞社営業局業務推進部	
日光湯元ビジターセンター	
日光市観光経済部観光課	
矢板市商工観光課	
那須塩原市商工観光課	
塩谷町産業振興課	
那須町観光商工課	
関東運輸局観光部観光地域振興課	

2. ステップアッププログラム 2025 検討経過

(1) 令和2(2020)年11月10日 第1回作業部会

日光国立公園ステップアッププログラム 2020 見直しの方向性について確認。

(2) 令和2(2020)年12月 第1回地域協議会(書面開催)

日光国立公園ステップアッププログラム 2020 見直しの方向性について確認。

(3) 令和3(2021)年2月 第2回作業部会(書面開催)

日光国立公園ステップアッププログラム 2025 草案の検討

(4) 令和3(2021)年3月 第3回作業部会(書面開催)

日光国立公園ステップアッププログラム 2025 案の検討

(5) 令和3(2021)年3月 第2回地域協議会(書面開催)

日光国立公園ステップアッププログラム 2025 案の検討、策定

発行／日光国立公園満喫プロジェクト事務局

環境省関東地方環境事務所 日光国立公園管理事務所

〒321-1434 栃木県日光市本町9-5
TEL：0288-54-1076

栃木県環境森林部自然環境課

〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
TEL：028-623-3206